

## 令和4年度第4回差別事象検討小委員会における主な意見と対応方針案について

### 1 コミュニケーション編

- ・ SNSでコミュニケーションをしていて、思いがけないトラブルに発展してしまった事例。

#### <修正前>ア マンガの事例

1	Aさんはグループトークで「Bさんっておもしろくない」と、最後に「？」を付け忘れたまま投稿した。
2	Bさんは自分が悪口を言われているように感じ、Aさん以外のメンバーで再度グループトークを作成した。そこでBさんは「Aさんはひどい人だから。仲間外れにしよう」と書き込んだ。
3	そのグループトークのメンバーはみんな賛同する投稿をした
4	このことをきっかけにAさんは孤立してしまった。AさんはBさんがおもしろいと感じ投稿しただけだったのに・・・

#### 【主な意見】

- ・この事例だと個人間のトラブルやコミュニケーションの中の問題で留まっている。自分の発信がインターネットという公共でどのような責任や影響に繋がっていくのかという視点を出したほうがよい。
- ・この事例だと小学生向けの事例のように思えるので、もっと対象年齢が上となる事例にしたほうがよい。

#### 【対応方針案】

- ・事例を変更し、SNS上での「刑を終えて出所した人」に関する投稿の事例とする

### 2 セルフコントロール編

- ・オンライン上では、その場の感情や雰囲気によって流されて行動すると、取り返しのつかない事態に発展することがある。

#### <修正前>ア マンガの事例

1	大学に合格したAさんは、いち早く人とつながりたいと思い、その大学の非公開SNSグループに参加。グループ内で、ある生徒が性的マイノリティを嫌うような差別的な言葉を投稿した。
2	Aさんは、はじめはその投稿を見たときに不快に思ったが「大学で新しい友達を作りたい」という気持ちから、差別的な投稿に「同感」を返信。
3	数週間後、大学の審査チームが、このSNSグループ内の差別的な投稿に関する通報を受けたため、調査をすることとなった。
4	差別的な発言をした生徒の入学を取り消すという判断を下し、Aさんにも入学取り消しの通知が来た。

(出所) デジタル・シティズンシップ プラス (著者: 坂本旬氏、今度珠美氏ほか6名)

#### 【主な意見】

- ・ポイントとしては、まず、この男の子は本当に軽い気持ちで「いいね」を押してしまったが、それが性的マイノリティに対する知識がなかったとか知らなかったでは済まされないということを知らなければならない。
- ・インターネットの人権侵害は、軽い気持ちだったとか知らなかったでは許されることでは決してない。知識を持たなければ、こういう過ちを犯してしまう、そしてその過ち、特に人権侵害は、絶対に許されないということをもっと押さえていかなければいけない。
- ・周りで見ている傍観者が行動者なることで、状況を変えられるということも、この事例でもぜひ知って欲しい

- ・周りの傍観者（バイスタンダー）がアップスタンダー（行動者）になっていくことで、差別や偏見、ヘイトスピーチなどを減らしていこう、減らしていくんだと考えさせていくことがまさに人権教育の基本ではないかと思う
- ・デジタルシティズンシップは、基本的には、こういうアップスタンダー教育というのがベースにあることが大きなポイントなので、周りの傍観者がどう行動していくのかっていう視点は欠かせない。
- ・大学で性的マイノリティのアウティングにより自殺をしたような事例もあったので、大学はこういった人権侵害のSNS投稿等に対しては非常に厳しい対応をとるということがある。特に今の若い人たちには、そういった人権に関する知識をしっかりと持って、社会で発信していくという責任を持ってもらいたい。
- ・Aさんがその状況に陥った自分を顧みた際、罰せられたからしなければよかったというよりは、不快に思ったところで、ちゃんと自分の気持ちを確認すればよかったと思って欲しい。そういう展開がコンテンツに入ればいいなと感じた。

#### 【対応方針案】

・事例の中にAさんの他に新たにBさん、Cさんを登場させ、「同感」の投稿をした後、Aさん、Bさんは、やはり「同感」は良くないのではないかと立ち止まって考え、「同感」の投稿を取り消したが、Cさんは何の行動もしなかった。このためAさん、Bさんはトラブルを回避することができたが、Cさんは入学取消となったという展開に変更する。

### 3 情報発信編

- ・人権などへの社会的配慮の足りない情報発信は他人の人権侵害などを引き起こすことがある。

#### <修正前>ア マンガの事例

1	Aさんは、とある会社の社長をしており、海外によく出かけている。Bさんは、そのことを羨ましく思っていた。
2	Aさんの親が体調を崩し、Aさんは実家に長期間滞在していました。
3	Bさんは、長らくAさんの姿を見かけなかったことから「Aさんはまた海外に出かけコロナに感染したに違いない」と思い、SNS上に「〇〇会社のA社長はコロナに感染したのではないか。こんな時に海外に行くなんて信じられない。×××××」と誹謗中傷の投稿をした。
4	この投稿が拡散し、Aさんの経営する会社の配達事業は次々に契約を解除されてしまった。

#### 【主な意見】

- ・ポイントの部分に「感染を責めることは誰にもできない」というメッセージを発信と書いてあるので、コロナに感染したと思い込んで、恣意的に誹謗中傷をしたということが言いたいのだと思うが、この事例の流れでいくと自分はコロナで思うように行動することができていないのにといい羨みが無意識にそういう誹謗中傷の行為につながったというようにも取れるので、どちらかにしたほうがよいのでは。
- ・この事例は、羨ましいとかそういうことは外して、Bさんは、Aさんがそういう人だと勝手に思い込んで、自分のバイアスで、こういう投稿をしたってところだけに絞った方がよいのではないか。羨ましいとか妬みで誹謗中傷したというサイドストーリーが入ってしまうと、誹謗中傷はよくないという部分だけに意識がいってしまいそうな気がする。
- ・ストーリー的には、悪気はないのに思い込みでやってしまうことが、こういう結果に繋がるとしたほうがバイアスが強調されるように思う。

#### 【対応方針案】

・BさんがAさんを羨ましく思っているという部分を削除し、Bさんの勝手な思い込み（確証バイアス）で、SNSにAさんがコロナに感染したのではないかと投稿し、その結果、Aさんの経営する会社の配達事業が次々に契約を解除されたという内容に変更する。

#### 4 その他全体を通じての主な意見

- ・うまくいかなかった事例だけではなく、こんなふうに振る舞えたことで結果的にうまく過ごすことができたというストーリーが入っていてもよいと思った。展開に入らなければ解説のほうにでも入れればいいなと思う。
- ・傍観者ではない立場になるためには、どこにかみこんでいったらいいのかというのがきちんと書き示されるべきだろうと思う。
- ・周りの方の視点がポイントのところへ上げられているのが少ないのかなと思う。例えば1つ目のコミュニケーション編のところだと他のグループのメンバーも賛同する情報を押しているというところで、そういうところに対する問題意識等をポイントとして入れた方がいいのではないかと思った。
- ・言葉の定義を明確にした方がいいと思う。コンテンツ集の巻末にでも、言葉の解説の欄などを設けて、例えば確証バイアスとはこういう意味であるとか、性的マイノリティはこういう意味であるとか、出てくる用語の解説を載せたほうがよいと思う。その際、定義は勝手に作ることは絶対できないので、必ず学术论文や文献から採用されている定義を引き出して解説するようにしていただきたい。

#### 【対応方針案】

- ・セルフコントロール編の事例にうまくいった展開とうまくいかなかった展開の両方の内容を入れることとする。
- ・ポイントの部分に周囲の人々の立場での、問題意識や行動のポイントについて記載することとする。
- ・用語の解説については、巻末等で対応することとする。